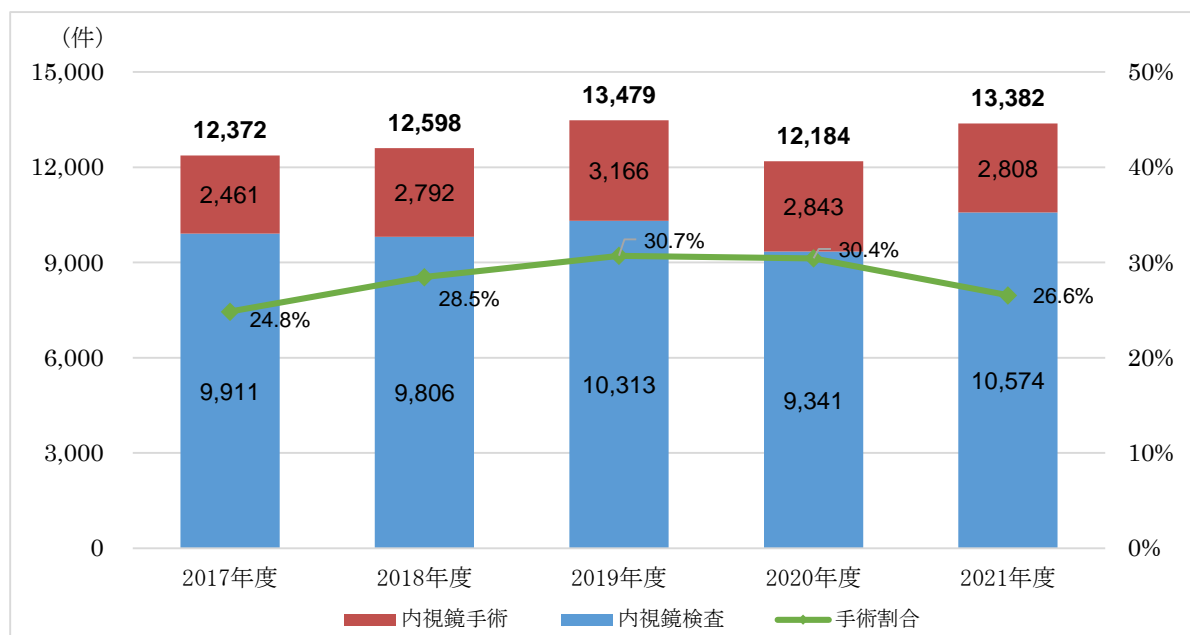


50. 内視鏡件数に占める治療（手術率）



2021年度は、Covid-19感染症流行に関わらず、日本消化器内視鏡学会ガイドラインに準拠した感染予防措置策を徹底することにより、流行以前と同等の内視鏡検査数を安全に実施することが出来た。

消化器内視鏡診療が関係する疾患は、消化管疾患（食道・胃・小腸・大腸など）と胆膵疾患（胆管・胆嚢・膵臓）に分けられる。対象疾患によって必要となる内視鏡検査手技及び内視鏡機器は多岐にわたるが、当内視鏡センターでは全ての領域で内視鏡診断と治療を行っている。消化管領域では、上部消化管内視鏡・大腸内視鏡・小腸カプセル内視鏡・大腸カプセル内視鏡・ダブルバルーン小腸内視鏡を用いた全消化管領域の診断と治療を行っている。また、肝胆膵領域においては、超音波内視鏡検査(EUS)を用いた膵臓がんや胆管がんなどの胆道・膵臓疾患の画像診断、超音波内視鏡下穿刺生検（EUS-FNA）による組織学的診断等を施行している。

“がんの統計2022”によると、わが国のがんによる死亡者数の上位5位は順に肺がん・大腸がん・胃がん・膵臓がん・肝臓がんとなっている。特に膵臓がんによる死亡者数は男性では第4位、女性では第3位と上位ですが、近年増加傾向が続いており、10年以内には膵臓がんによる死亡者数は男女ともに全がん種の2位になると考えられている。罹患者数では、全がん種で大腸がんが第1位、胃がんが第2位であり、両がん腫ともに早期発見することで治療する可能性の高いがんである。内視鏡センターでは、胃がんや大腸がんの早期発見と内視鏡的治療に注力すると同時に、難治がんである膵臓がん、肝臓がん、胆管がん、胆嚢がんの早期発見と新規治療の開発に取り組んでいる。

藤田医科大学病院内視鏡センターは、『心のこもった高度医療を提供する』ことを基本方針とし、最先端かつ安心・安全な内視鏡検査・治療を提供していく。

データ提供 内視鏡センター